

令和7年度愛知県総合教育センター教育研究調査事業について

1 研究の趣旨

学校の現状に即した教育課題及び教育行政上の今日的な課題について、学校・教育委員会各課との連携の下に、中・長期的な展望に立って、それぞれの課題に応えるための先導的な研究を進め、学校における教育実践の充実に寄与する。

総合教育センターにおける教育研究調査事業の位置付けを明確にして、実態調査・課題把握、研究実践、成果の普及・活用という見通しをもって研究を進める。

この趣旨に基づき、研究調査に関する重点を次の3点とする。

- (1) 学校の教育課題及び教育行政上の今日的な課題を探り、それに応える。
- (2) 研究と研修との連携をいっそう図り、研究成果を研修講座の充実・改善に生かす。
- (3) 研究成果の発信と学校現場への普及・活用を図る。(研究発表会、研究紀要、ウェブページ、研修講座、出前講座等)

2 研究領域の構成

研究の趣旨の下、次に示す2項目の領域を設定し、各年度に研究すべきテーマ及び内容を検討の上、決定していく。

令和7年度の教育研究主題は8件である。

(1) 教育課程及び学校の諸課題に関する研究(5件)

学習指導要領の特徴的な内容の効果的な実施と実践活動を支援する研究、教育相談上の諸課題に対して事例の分析や支援の在り方を探る研究、喫緊の教育課題に関する実態調査と分析及び最新の動向を踏まえた教育活動の推進に関する研究

(2) 教科等の指導の充実に関する研究(3件)

教科指導の現状把握と指導上の課題について分析し、教材、指導法を開発するとともに、「確かな学力」の育成、指導と評価の一体化等、各教科の教育課題に対応する研究

3 研究形態

共同研究：理論の検証や実践のために、所員と研究協力委員または研究協力校、協力団体と共同で研究を進める。

所内研究：当センター所員のみで研究を進める。



令和7年度教育研究調査事業概要

領域Ⅰ「教育課程及び学校の諸課題」

領域	番号	研究主題	研究内容
教育課程及び学校の諸課題	1 (新規)	デジタル人材の育成に関する研究	教育においてICTの活用が「日常化」するよう、DXの推進を着実に進めると同時に、先進事例の創出、デジタル人材育成、社会教育分野のデジタル活用推進等に関する研究に取り組む。
	2	主体的に社会の形成に参画する態度の育成に関する研究	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度、規範意識、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度などを養う。
	3	自ら学ぶ力の育成に関する研究	子どもたちが「学びの楽しさ・よさ」を実感するという観点の下、今までの学校の教育活動やその手だて等を再検討・再構成することによって、子どもたちの「自ら学ぶ力」を向上させることを目的とする。特に、「学びの楽しさ・よさ」を実感させるための手だてや、子どもたちが「自ら学ぶ力」を発揮していることを見取る方法について探ること、子どもたちの学びの質の向上につなげていく。
	4	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための探究的な授業づくりに関する研究	児童生徒が、習得・活用・探究の学びの過程の中で自ら課題を見つけ、仲間と協働して解決したり、新たな考えを形成したりするなど、探究的・創造的な活動をする授業を通して、学校の教育目標の実現を図る。
	5	特別な支援を必要とする子どもの卒業後の生活へのスムーズな移行に関する研究	特別な支援を必要とする子どもの卒業後の生活が充実するための仕組みについて研究を行い、卒業後の進路先へのスムーズな移行に資する。

領域2 「教科等の指導の充実」

領域	番号	研究主題	研究内容
教科等の指導の充実	6	全国学力・学習状況調査に関する研究	愛知県の学力・学習状況調査の結果を分析し、義務教育の充実に関する基礎資料とする。
	7	県立高等学校教育課程課題研究（国語）	高等学校教育課と総合教育センターとの共催の事業である。 学校における教科指導の現状把握と指導上の課題等について研究する。
		同（地理歴史、公民）	
		同（数学）	
		同（理科）	
		同（英語）	
		同（情報）	
		同（産業教育（農業、水産））	
		同（産業教育（工業））	
		同（産業教育（商業））	
	同（産業教育（家庭、看護、福祉））		
8	情報教育の充実に関する研究（ICT授業活用に関する研究）	本県におけるICT教育環境の特性を把握し、各教科における効果的で汎用的な活用等について研究する。総合教育センターのコンテンツ等を見直し、過去の研究成果を含め見やすいコンテンツ等を発信することで、研究の普及還元をねらう。	

